

宣言書

私は、私の傷病が不活であり、且つ死が迫っている場合に備えて、私の家族、縁者ならびに私の医療に携わっている方々に次の要望を宣言いたします。

なおこの宣言書は、私の精神が健全な状態にある時に書いたものであります。従つて私の精神が健全な状態にある時に私自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成しない限り有効であります。

一 私の傷病が、現在の医学では不活の状態であり、すでに死期が迫

つていと診断された場合には、後に死期を引き延ばすための延命措置は一切行わないでください。

一 但し、この場合、私の苦痛を和らげる処置は最大限に実施してください。そのため、たとえば、鎮痛剤などの副作用で死ぬ時期が早まったとしてもかまいません。

一 私が脳死状態となり、植物状態からの回復が見込めない場合には、一切の生命維持措置を行わないでください。

以上、私の宣言による要望を忠実に果たしてくださった方々に深く感謝申し上げますとともに、その方々が私の要望に従ってくださった行為一切の責任は私自身にあることを申し添えます。

なお、私を大切に思う家族、縁者の方々が私を引き止めたいと思つてくださるかもしれませんが、私も回復できるならもう少し愛する人たちと共にいたいのです。でもその可能性がないのならどうか静かに逝かせてください。よろしくお願いいたします。

住所

氏名

印

作成

年

月

日